※ご注意下さい
露骨な描写はありませんが、
性的表現がメインにあります。
苦手な方はご遠慮ください。

このコタンには男が居なくなったからずっといろといっている。

チンポ先生が大人気だ。

この人は尾形にずっとここにいろと言っている。

悪いが用事があるんでね。

モテるじゃないですか上等兵殿～

あの時は・・・

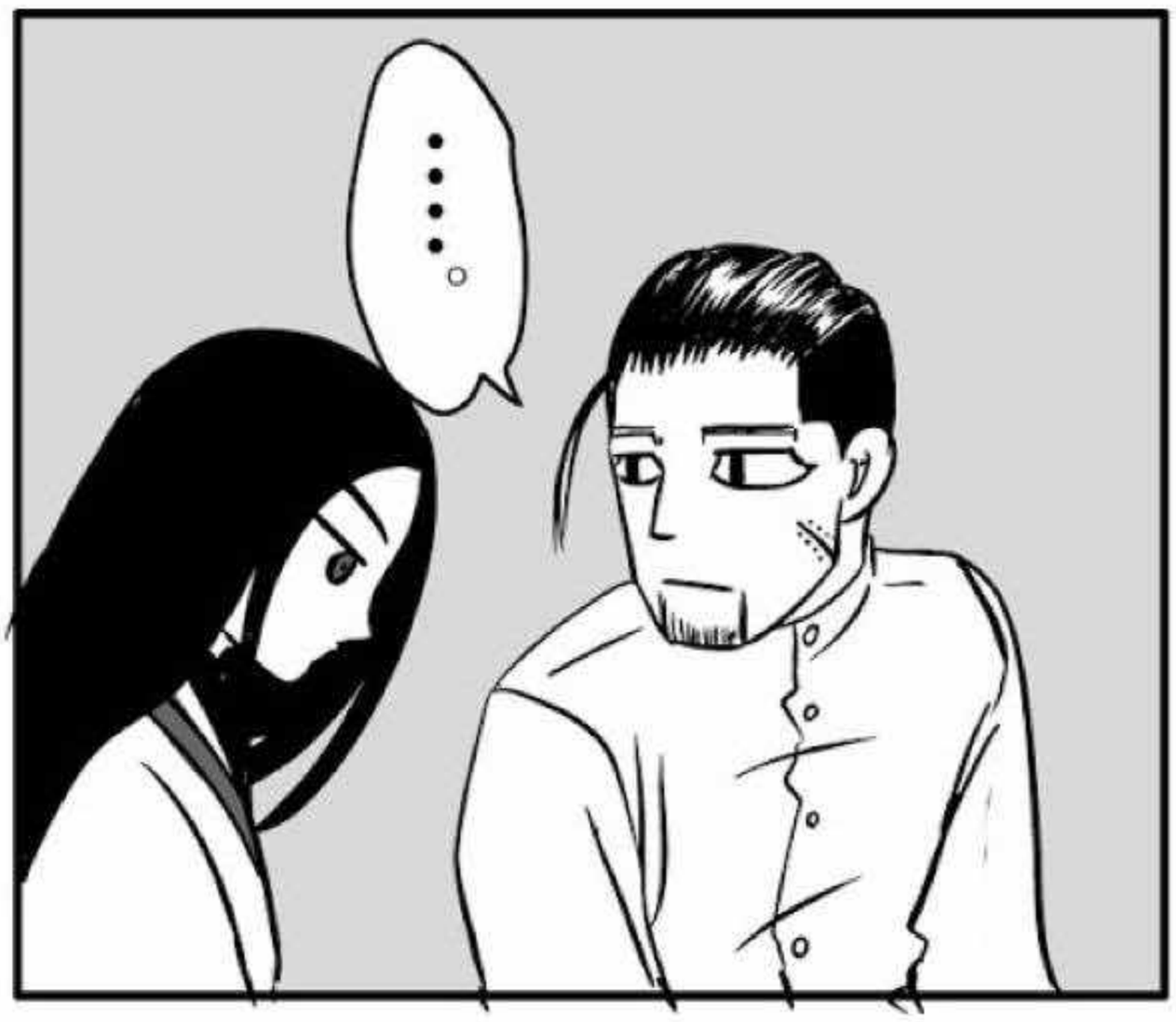
そうやって笑ってられた。

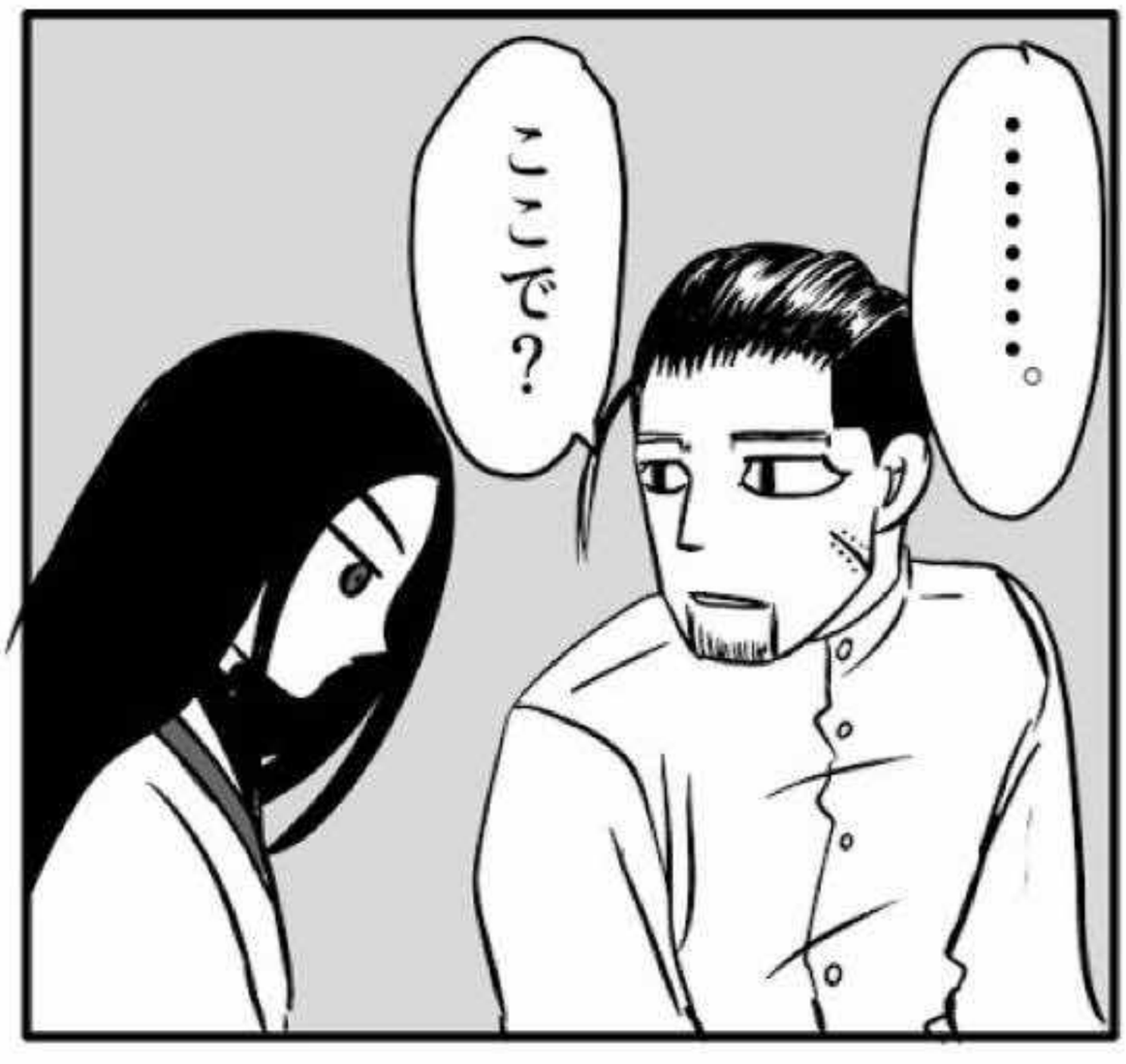
ウィルクにとって
私はまだ子供でしたから
忘れちゃったかも知れませんね。

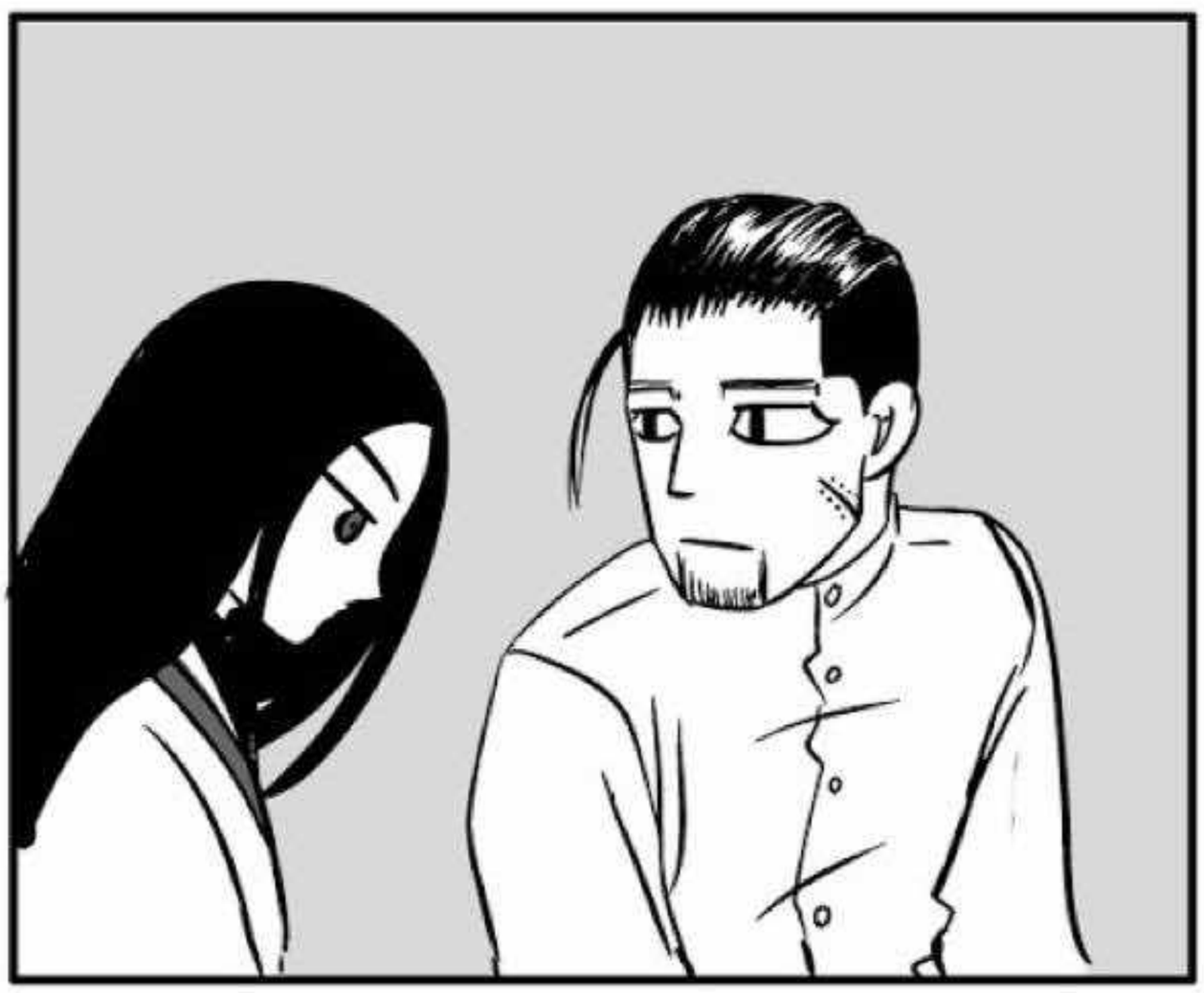
どうした。

ここで・・・

・・・ここで寝る。


・・・・。


ハンドで？
・・・・・。



・・・だめだ。

……聞こえなかったか？

そういう事でいいんだよな？

つまりそれは

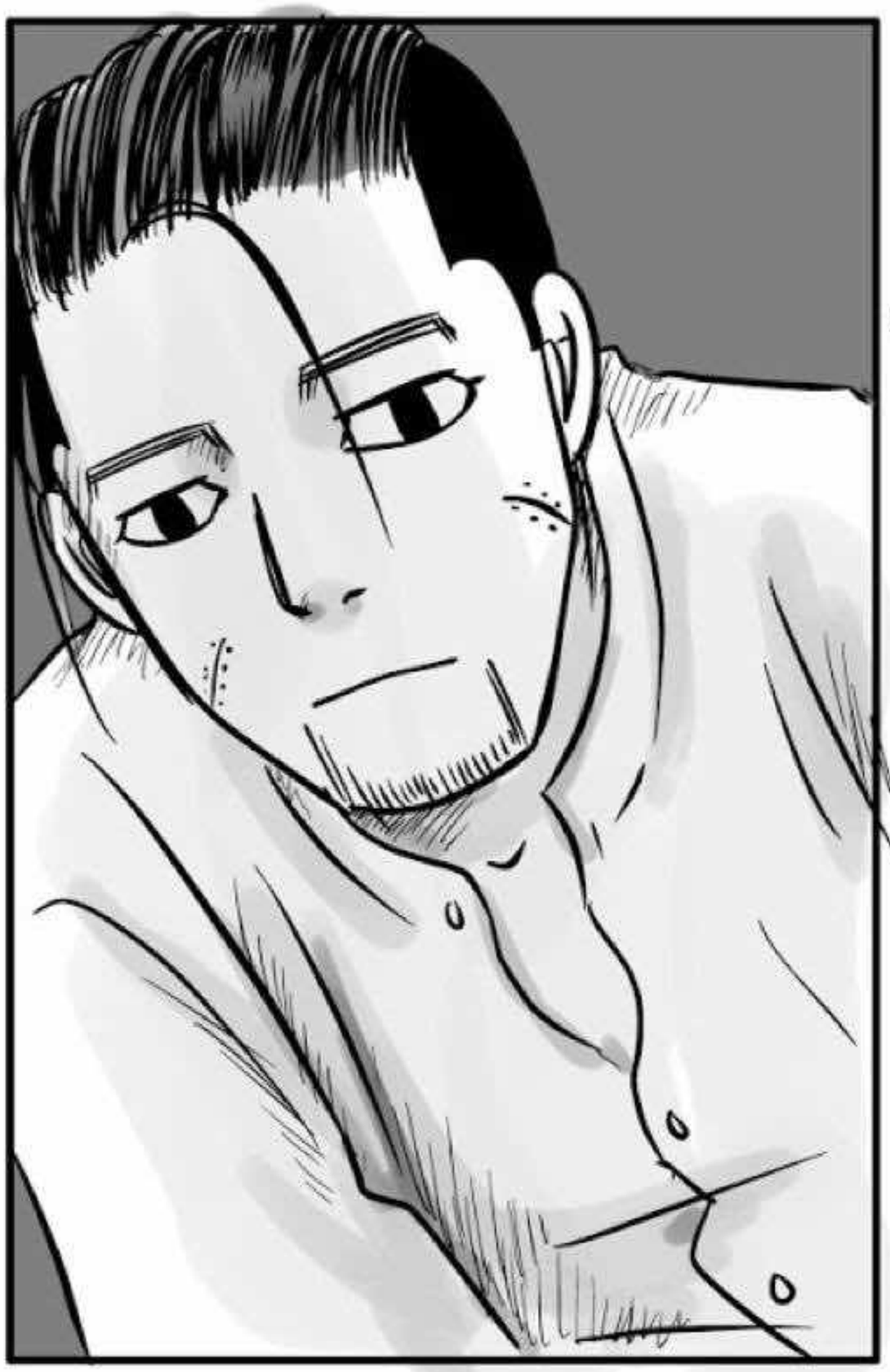
どうなんだ？

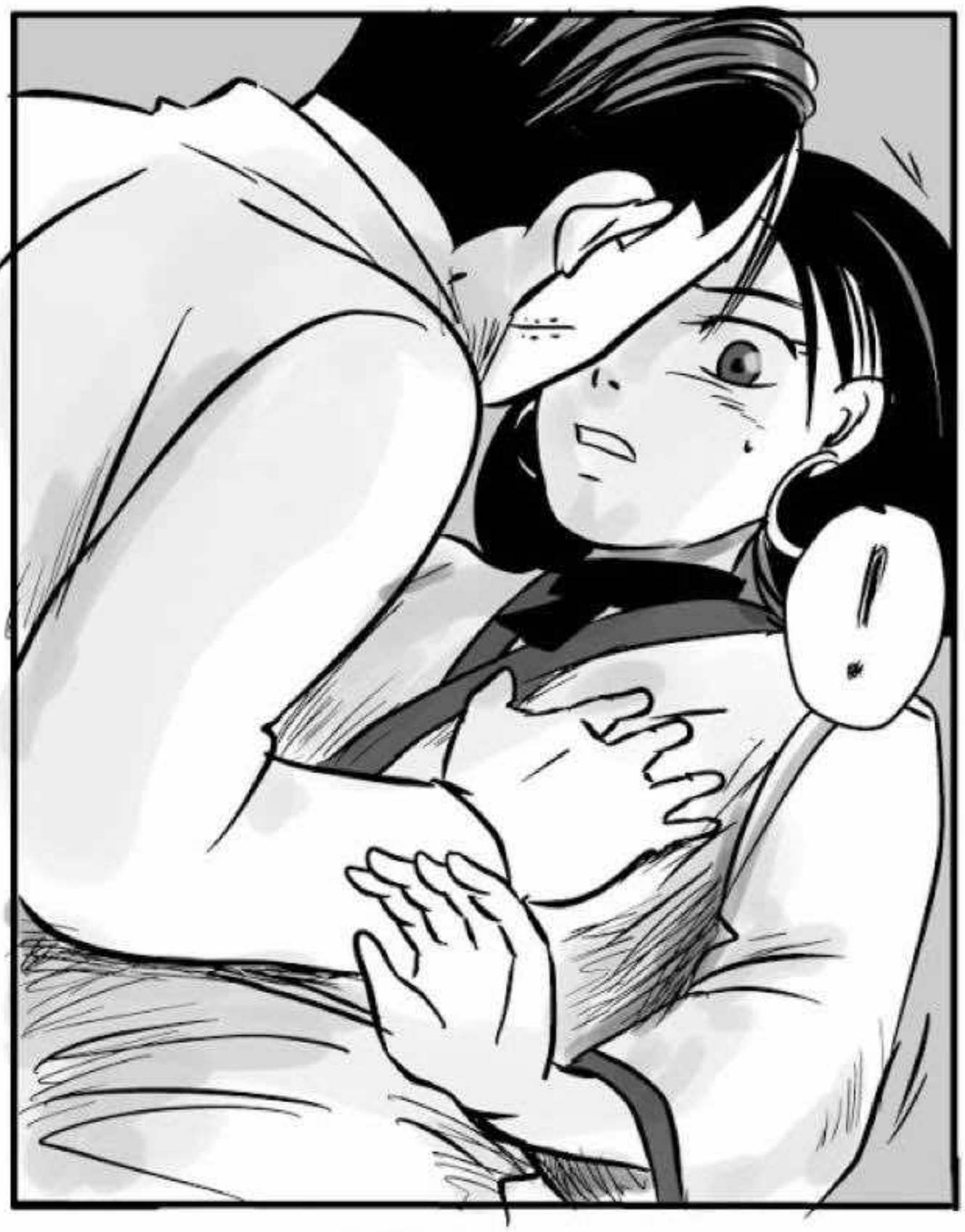
…何を考えて
いるのかわからん。

尾形にそう言われるとは…

ビクッ

もっとして……。
……。





はぁ…

仕女…

……！

いやだ！

やだ！

！

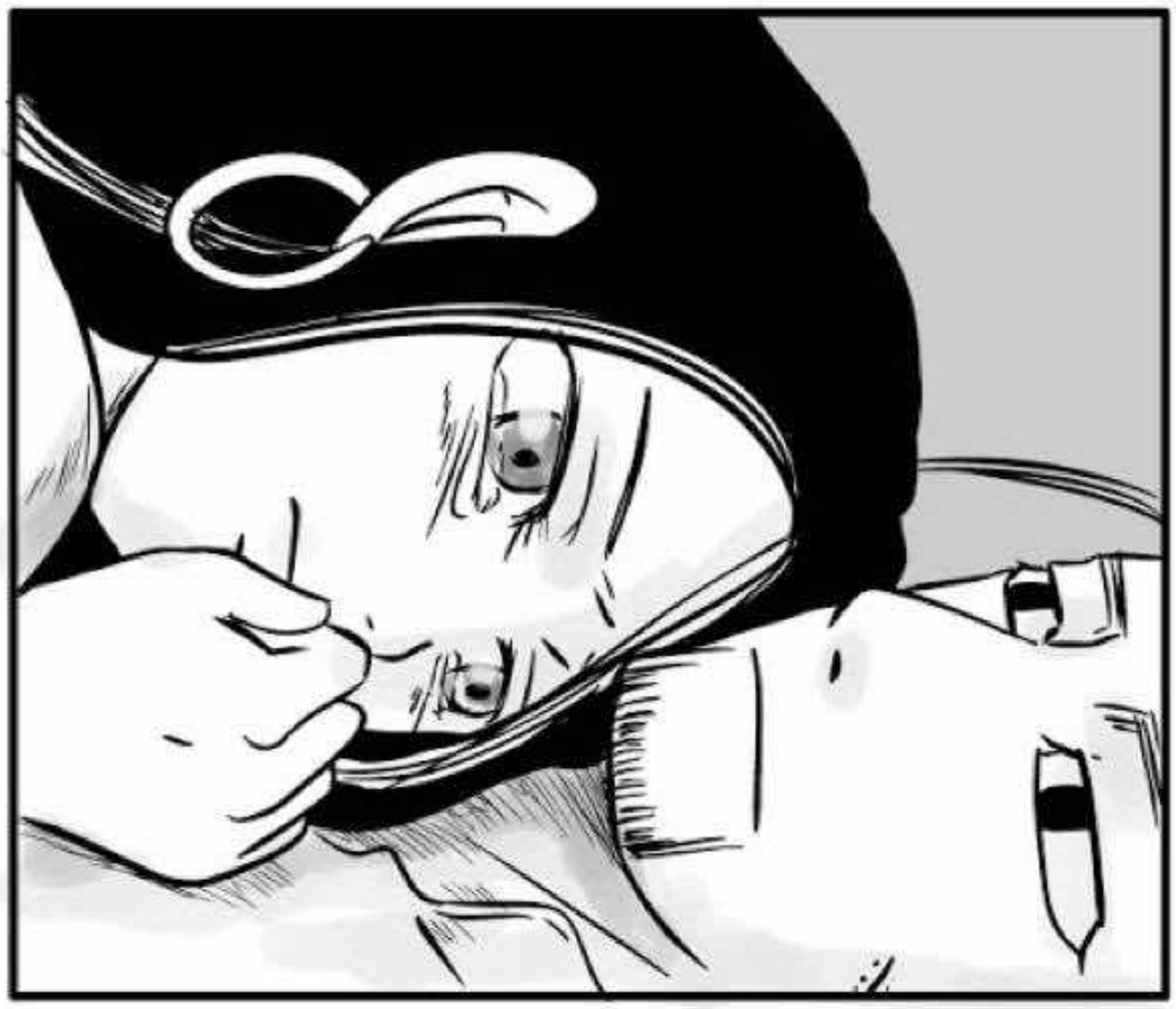
やだやだ！

クヤヤパプ…
（すまない）

あと…せいぜい

一年か…

二年くらいか…



そんなに待っては
もらえない。

尾形は気まぐれな
猫だから。

金塊を手に入れたら
私にも興味がなくなって
フラリとどこかへ
行ってしまうだろう。

私をおいて行ってしまうだろう

大人になる・・・・

早く大人になるからっ・・・

早く・・・大人になる
私は・・・

早く抱かせろ。

だから。　置いていかないで。

そう、奪ってやったのだ。　　娘はそれを知らない。

手を出した事は
なくても
頭の中では
幾度となく
陵辱してきたのだ。
娘はそれも
知らない。

自分に向けられている目が、どれだけ汚い物なのかを知らない。

若すぎる美しい娘はいずれ広い世界を知る。

いずれこんな年寄りには失望し、

違う男の所へ行く。

娘が居なくなる前に、

俺は自分の死に場所を

みつけられるだろうか。

娘が居なくなる前に

娘を抱く事など

あるだろうか

無理矢理に抱きたいとも
思わないが

無理矢理抱いたら
どうなるのか
興味がないわけではない。

いっそ
怨まれて
殺されてみるのも
良いかも知れない。

……
……ふっ……！

はぁ…

はぁ

……
……！！

は！！

は…

こういう時間は　いつか終わる。

娘への執着が、愛しているからなのかも
娘が俺に寄り添ってくるのが
愛されているからなのかも
わからない。

俺はやはり
何かが欠けている。

・・・アシリパ・・・

…尾形…

あとどれくらい この碧い眼に映っていられるだろう

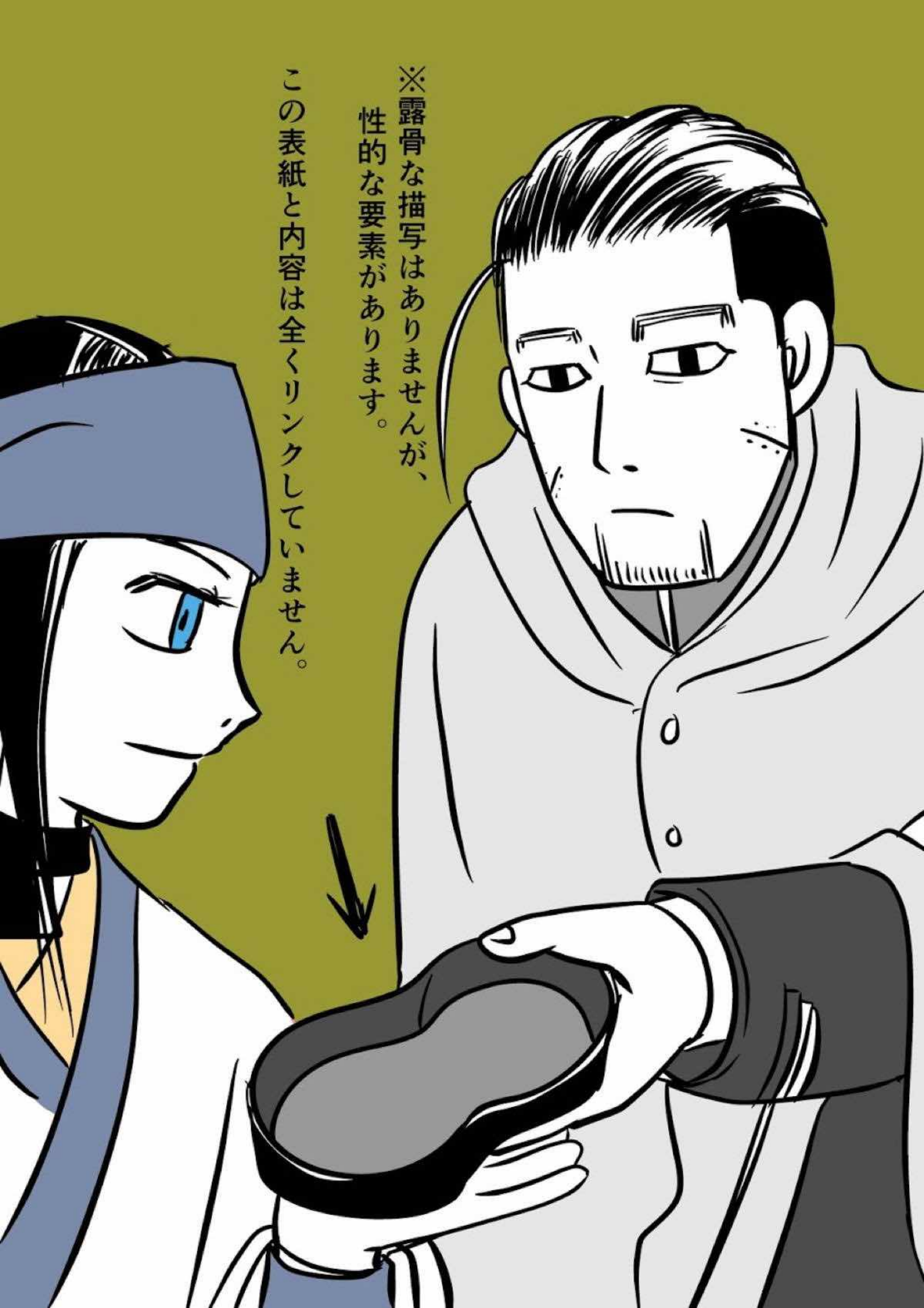
仮に娘が俺からの愛を
望んでいたとしても
おそらく
娘が欲しがる言葉は
与えられない

終わる時まで

アシリパ…

※露骨な描写はありませんが、
性的な要素があります。

この表紙と内容は全くリンクしていません。



尾形ー
なんでお前は
飲まないんだー

アシリパちゃん、
ほっときなよ。

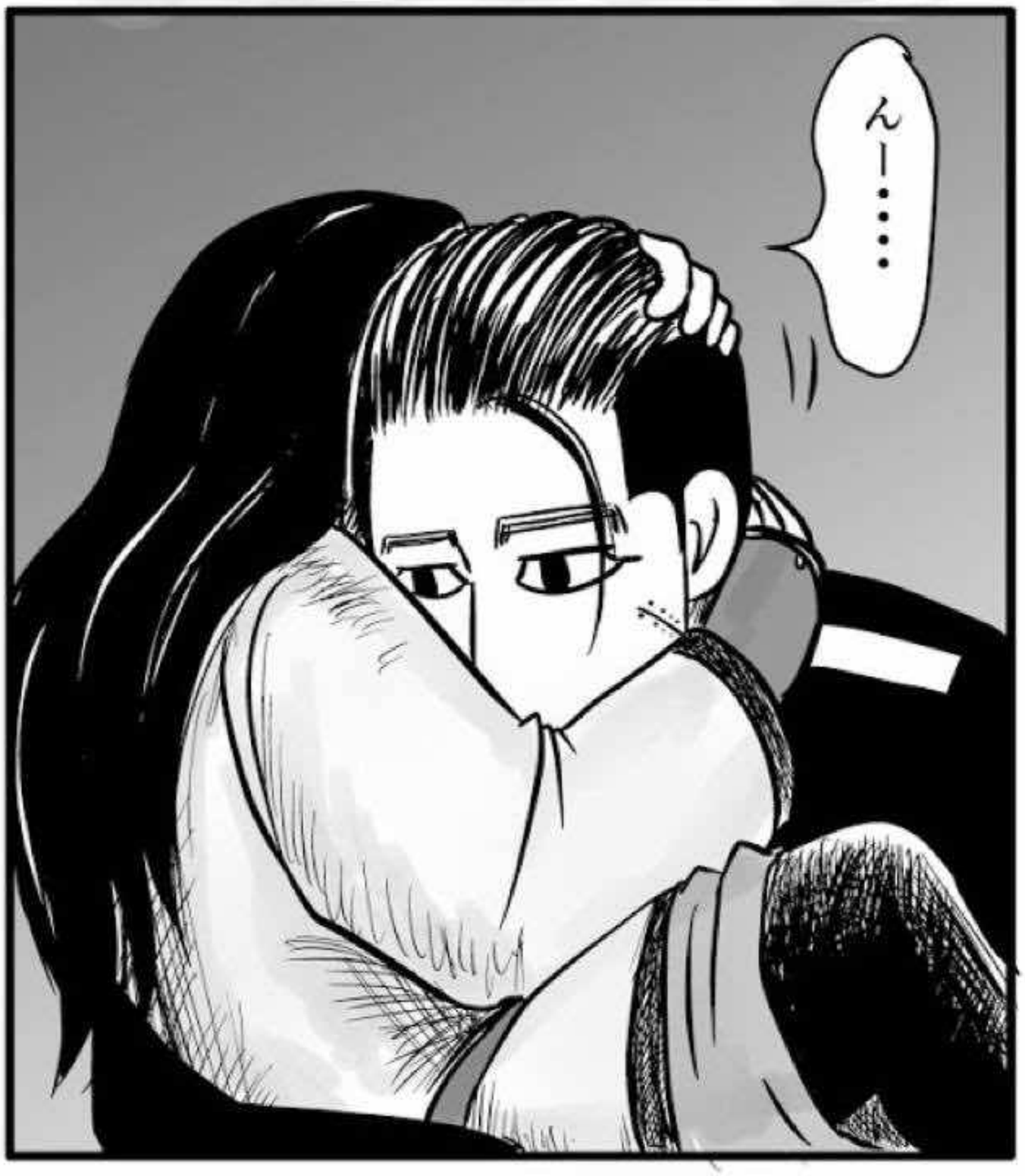
・・・・。

飲めよー
飲め飲め飲め飲めー
私の酒が
のめめんのかー！

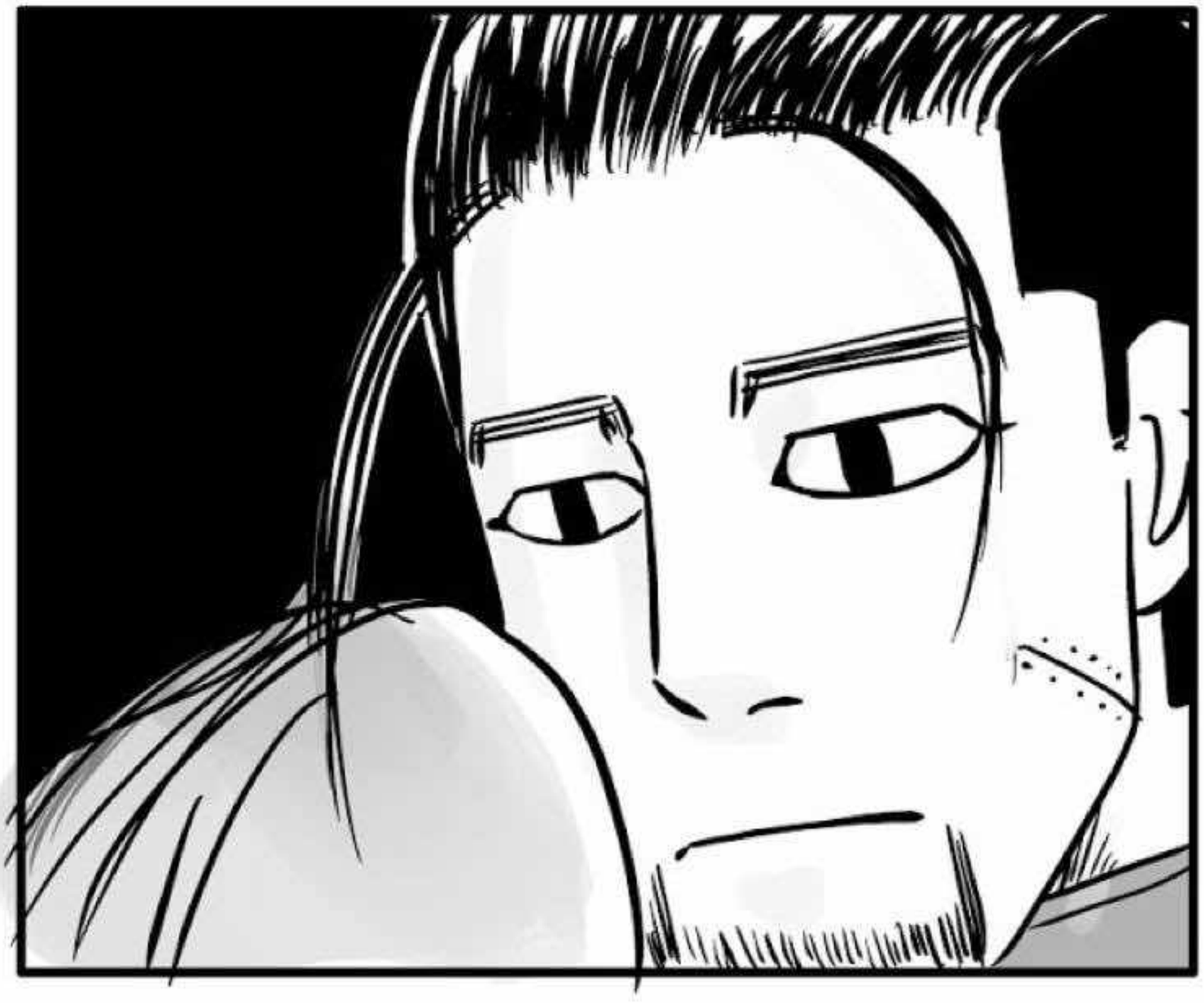
やかましい。

ちはは
チキン
チキン
はは

……アシリ…


んー……

すぎもと……



起きろ。

目を開けろ。

……ん……
おがた…？

なんだ…
…。ねむい…

ん！……

おはは

ふぃ

ふはは

やめろ……！

女男は抱くまで惚れる。
女は抱かれた後に惚れる
と、いう。

「男ってのは
出すもん出すと
そうなんのよ」

この娘の中に
自分の欲望や
執着を吐き出して
しまえば、
楽になれる
かもしれない。

この娘の頭の中を
奴から自分へ
上書き
できるかもしれない。

娘は泣き喚いて自分を
呪うかもしれない。
自分に向けられるのは
殺意かもしれない。

そうすりゃ
自分の中にも
罪悪感が芽生える
かもしれない

どうなろうと、
興味がない事は無い。

やめて欲しいか？

あんまりそういう風には見えねぇけどな。

諦めろ、アシリパ。受け入れた方が無駄に痛い思いをしなくて済む

言ってみな、抱いてくれってな・・・・

ハァ

ハァ

い

つ

て

え

・

・

・

・

・

そうだ見ろ。

俺を見ろ。

俺を見ろ。

何をそんなに泣いているんだ……

なにをそんなに…

…かきむしる…
みたいに…

…泣いているように…見えた…

…？
…泣いてねぇよ。

酒くせぇ。

……。

酔っ払って、何か、
私は尾形が怒るような
事をしたんだな・・・

すまなかった・・・

お前は男を知らねぇな。

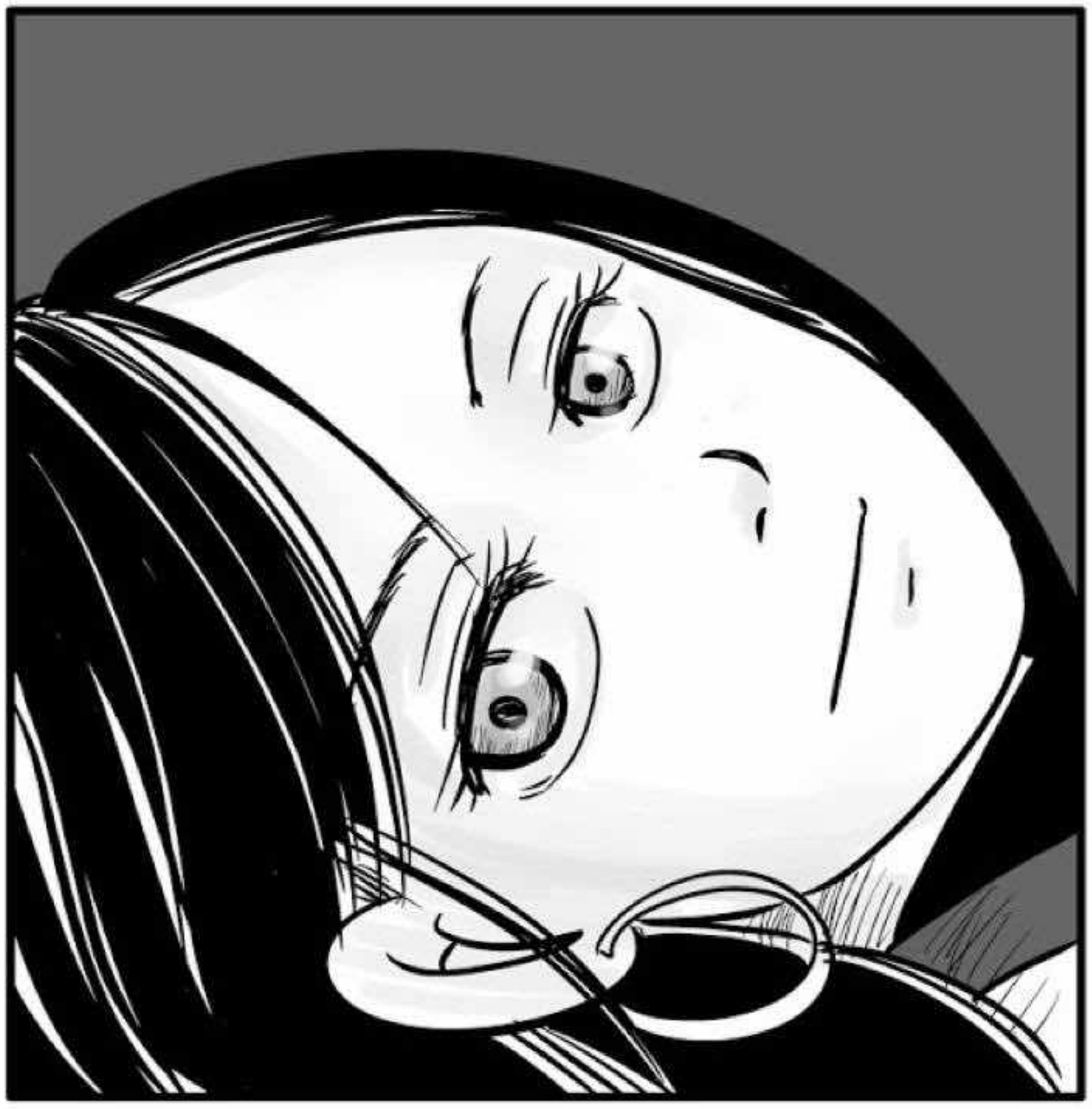
理由なんか無くても
男はこういう事が出来るんだよ。

それなら、
途中でやめない。

俺がやめてなかったら
お前、どうしてた？

自分の舌を
喰いちぎってたか？

それとも
俺の喉仏を
喰いちぎってたか？



…おやすみ…
尾形…

……。

痛て……。

何故そうなったのかは、不明であった という。

ただ、間違いなく両者の間には、ある意図が密かにあり、
それがお互いの方向を向いていた。
それがその状況を作り出したのであろう。

床で起こる事に偶然は伴わない。
それは狩猟とおなじである。狙わなければ、獲れない。

大抵の場合はそうであるが、
その両者の場合においても、
まず手を伸ばしたのは、男の方だったという。

「そこ」においては
一切の偶然は無いが、

相手がお互いに至ったのは、
偶然同じ時代に生まれ落ちて
偶然出会ったからなのだ。

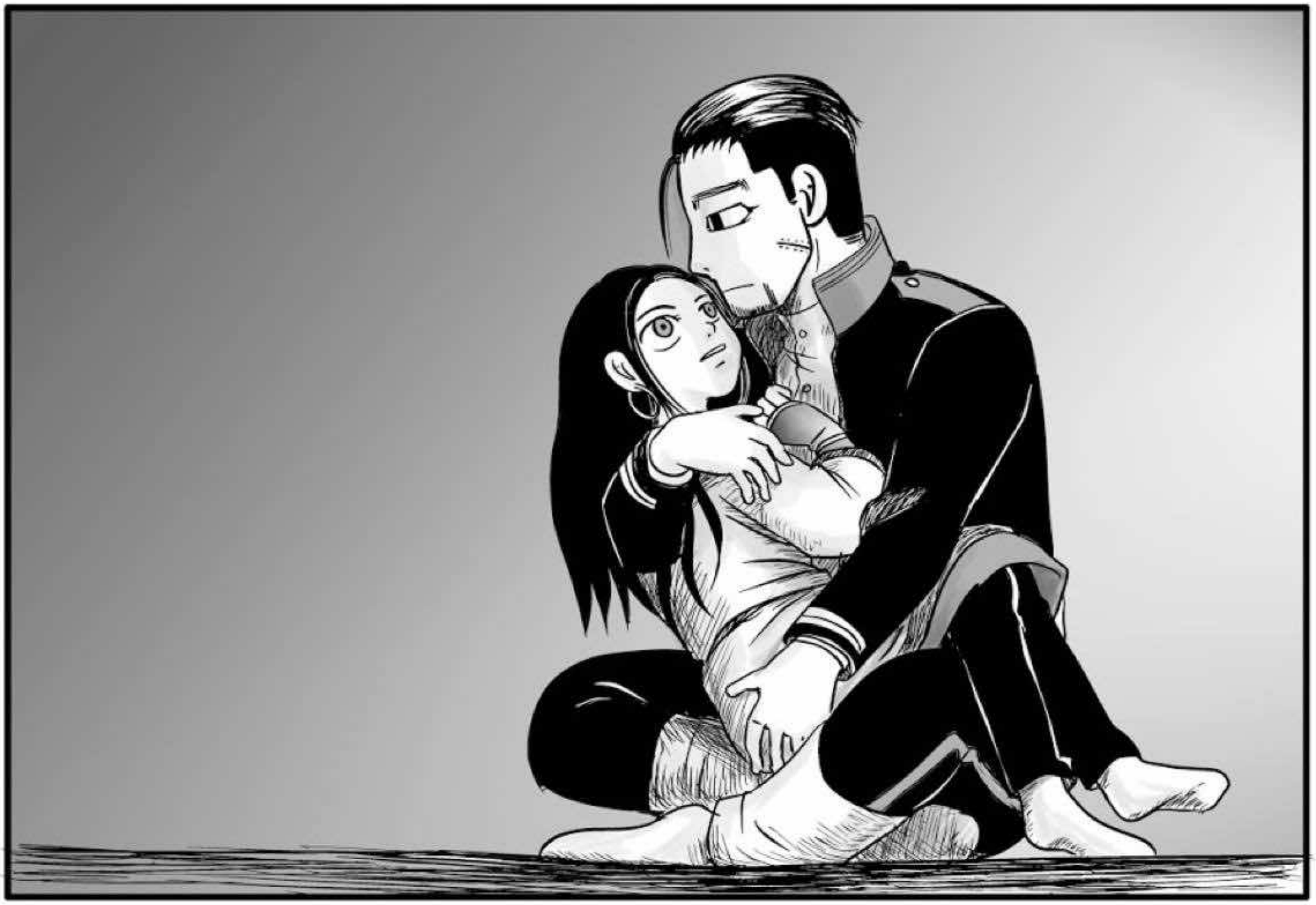
それは感謝して
良い事であろう。

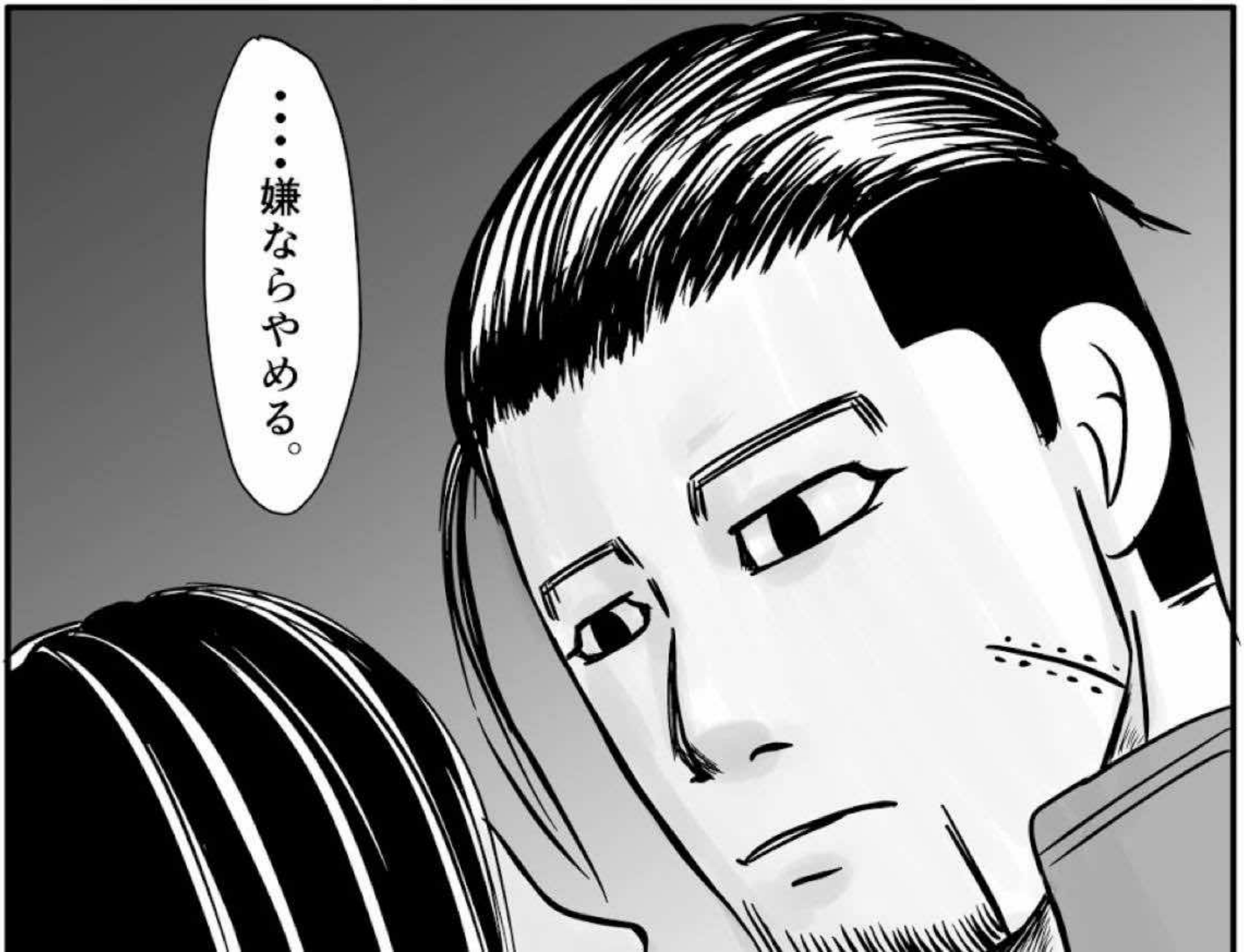
そういった点も含め、
食の事と、床の事は
大変よく似ている。

偶然生まれて
偶然出会った
命。

目の前に露わになる他の命を、
消費し、生産し、愛で、
感謝する。

一体誰に感謝しよう。
どう、感謝しよう。




・・・嫌ならやめる。

……。

あとあとに恨みごと言われるのは御免だ。

良いのか悪いのかはっきり言え。

……。

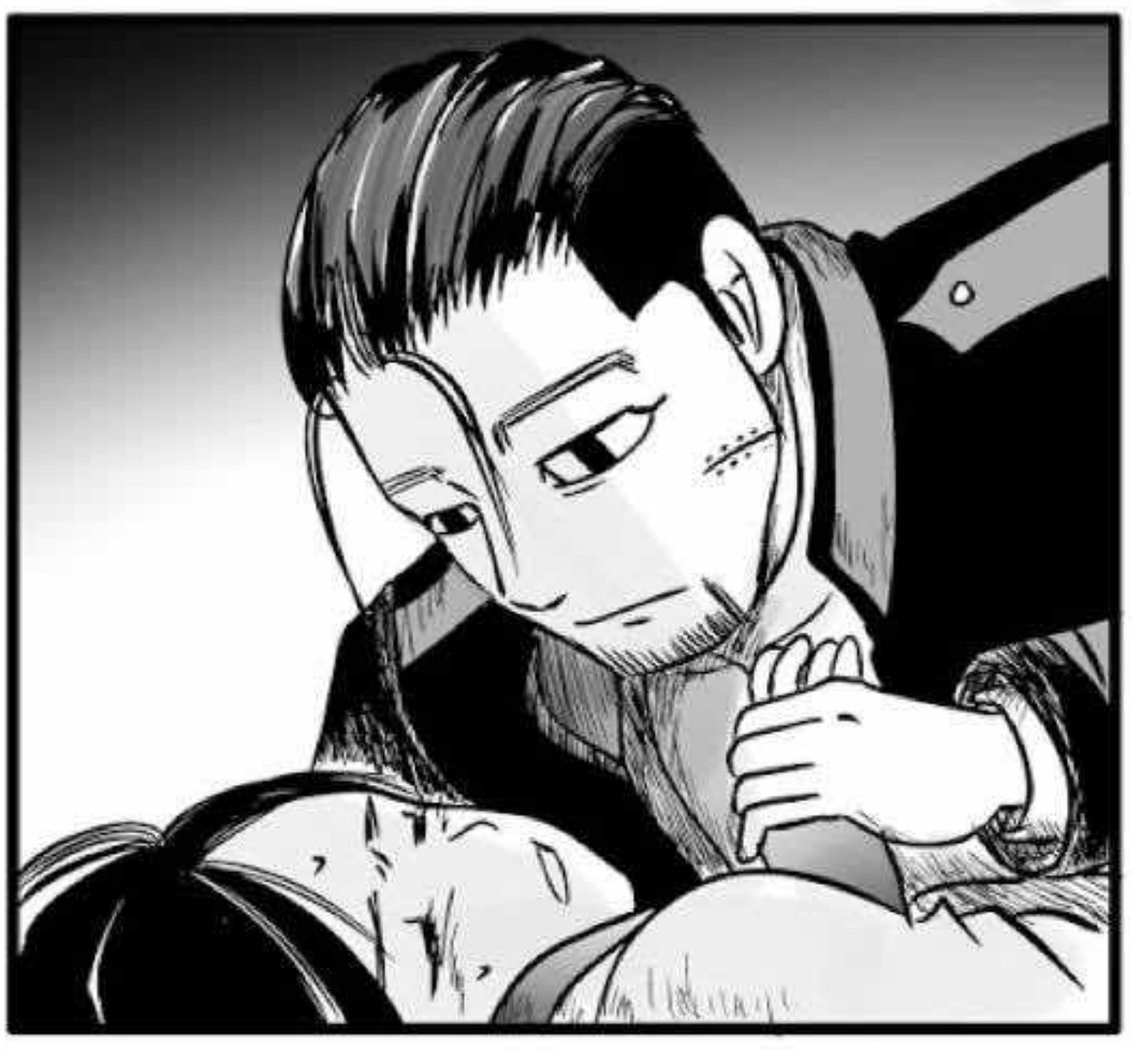
……。

……良い。

……。

痛！

!



前見た時と様子が違うな。

どうしてそういう風になるんだ？

どうしてって、さぁな？

……。

……。

……こわい。

……。

……今まで、
抱いた女で
生娘はいなかった。

どこまで気を使ってやれるか
わからん。

どうする。
俺はどちらでも
いい。

……どちらでもいいなら、

やめよう。

……。

・・・どちらかといえば
やりたい。

別に私じゃなくても
遊郭にでも行けば
いいだろう。

なんだよ。

杉元の顔でも
頭にチラついたか？

ペシ

お嬢、男ってのはな、
惚れていようがいまいが、
目の前に抱ける女がいたら抱く。
もし、お嬢の様子を伺って、
なかなか抱かないやつ、
途中でやめるようなやつだったら、
女として見てないか、
勃たないやつか、
お嬢に本当に惚れてるやつさ。

抱きたいのに手を出さないのか？

そうよ。
俺のように自信のある奴は
違うが、大概の男は
自信がねぇ奴が多いのさ。

自分も相手も
惚れているのか信頼して
ねぇんだな。
あとな、
男は察するのが苦手だ。

是か否か、
どうしてほしいか
はっきり言って
やるんだぜ。

チンポ先生以外の
男って面倒だな～

そう。面倒なのさ。

男は抱かせて紳士かどうか
見極めなきゃならねぇ。
いいか。

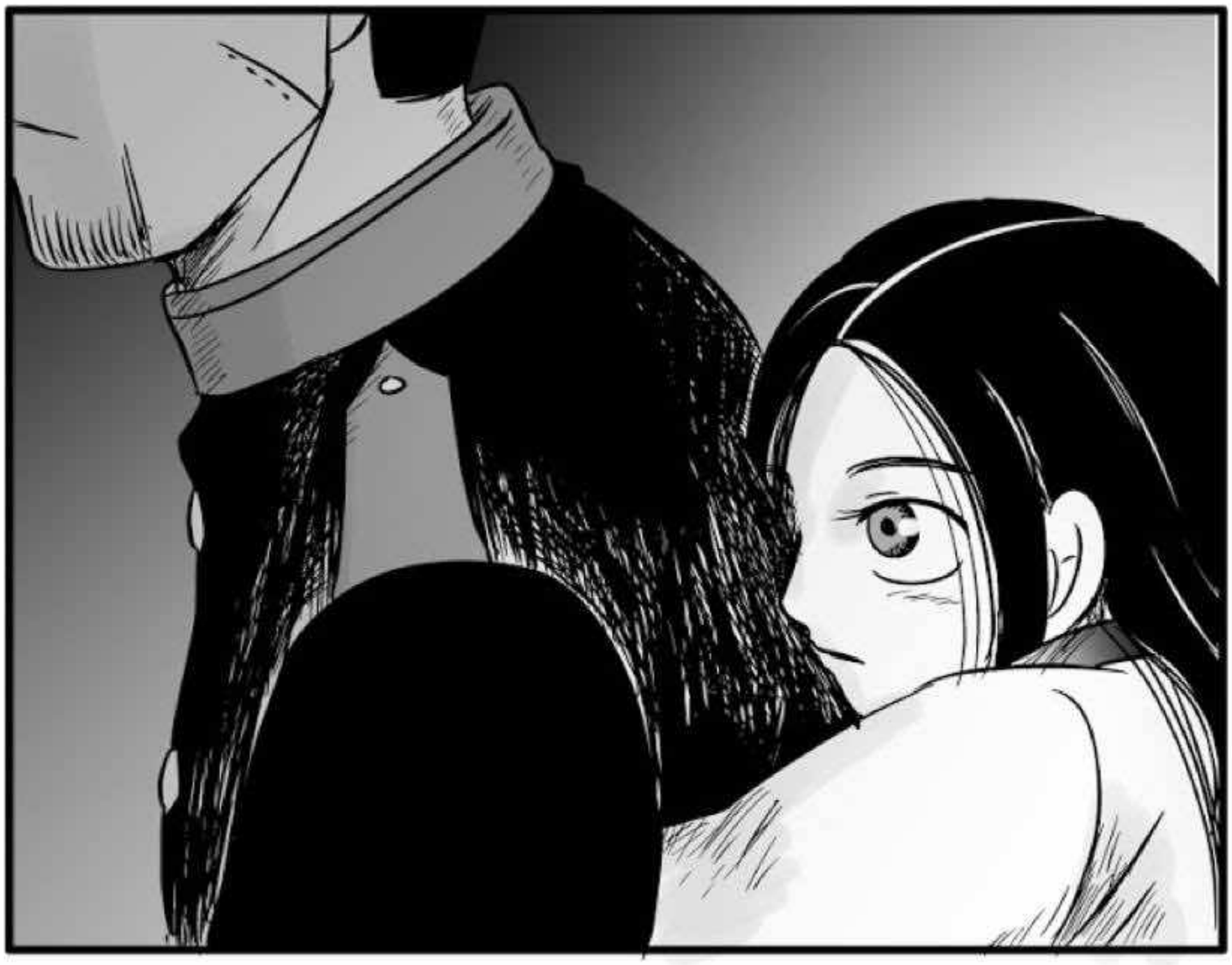
だから、抱かねぇ
めんどくせぇ
臆病者にはよ、
お嬢の方から
こう言ってやらなきゃ
ならねぇ。

愛されてるって言う確証を持てない人間にはいくらでも言ってやればいいんだ。

す　きだ。

背中ごしに 微かに

動揺が 伝わってきた。



まずは　そういった　コトだった　　という。